

市民と一緒に これからの仙北市を考える ～タウンミーティングを開催しました～

8月1日(土)、田沢湖会場と角館会場の2か所でタウンミーティングを開催しました。今回は説明会方式ではなく、市民の皆さまと市が同じテーブルを囲み、グループに分かれて課題や解決策を話し合う「グループワーク」形式で行いました。両会場とも、幅広い世代の皆さまから熱心なご意見をいただき、未来の仙北市を共に考える貴重な機会となりました。今回いただいたご意見を施策検討に活かし、今後も市民の皆さまと対話を重ねながらより良いまちづくりを進めていきます。

※8月8日に西木会場での開催も予定しておりましたが、参加人数が少なく、グループワークが成り立たないことから中止とし、西木会場を希望された方には別会場に参加していただきました。



◆田沢湖会場

日時：8月1日(土)9時30分～11時30分
会場：田沢湖総合開発センター

田沢湖会場では、「地域の足・公共交通」と「仙北市のファンづくり・移住」の2つのテーマで話し合いました。「4年後・8年後」ではなく「今すぐ取り組んでほしいこと」として切実な意見が多く寄せられました。



地域の足・公共交通

「地区によって交通サービスや利用者負担に差がある」「交通費が高い」「ドライバー不足が深刻」「介護タクシーが不足している」「外国語対応窓口がない」といった課題があげられました。また、田沢湖と角館の病院間の移動手段の確保や、運行方法・車両の見直し、公共交通にかかるコストを踏まえた運営の必要性などについて意見が交わされました。

解決策のアイデアとして、病院間移動の実施や介護タクシー実施への支援、地域に合った運行エリアの見直し、ふるさと納税の活用など、将来を見据えた提案が寄せられました。

市の考え方

- ・田沢湖角館の病院間の送迎は実施する(手法、車両、運行時間は今後検討)。
- ・交通空白地帯においては、市役所OBが立ち上げた「田沢地区のおたのしみバス」のような、地域住民が主体となる公共交通の流れも広げていきたい。
- ・企業誘致は地元企業との格差に配慮し、仙北市にとって良い企業を選んで進めたい。
- ・外国語対応についても検討していく。

仙北市のファンづくり・移住

「まずは市民が安心して暮らせる環境づくりが第一」との声が多くあがり、そんな子育てや医療、介護など暮らしに必要なインフラを維持し、市民が住み続けたいと思える地域づくりが、移住や定住の促進につながるのと考えが共有されました。その上で、移住希望者とUターン希望者では支援の方向性を分けるべきとの提案もありました。



市の考え方

- ・市民が誇れないふるさとにはお客さんも移住者も来ないと思う。
- ・私たち自身が豊かな暮らしをしていることに気づけていない面もある。
- ・地域の皆さまと一緒に地域の魅力を再認識し、発信していくことが大切だと感じた。

◆角館会場

日時：8月1日(土)13時30分～15時30分
会場：角館庁舎

角館会場では、「地域の足・公共交通」「空き家のこまりごと」「仙北市のファンづくり・移住」の3つのテーマで話し合いました。高校生の参加もあり、将来を見据えた前向きな提案が数多く生まれました。

地域の足・公共交通

デマンド交通については、「停留所が近くなり利用しやすくなった」「以前より便利になった」と評価する声が多く聞かれました。一方で、学生は家族の送迎が中心で公共交通を利用する機会が少ないことや、地域によらず公平な公共交通サービスを提供してほしいという意見もありました。加えて、公共交通を維持するためには利用促進が必要であり、利用者へのインセンティブや、企業・医療機関による送迎など、地域全体で支える仕組みについても意見交換が行われました。

空き家のこまりごと

高齢化や人口減少に伴う空き家の増加や、所有者との連絡が取れないこと、倒壊による周辺への影響などが課題としてあげられました。解決策として、家族間で早めに話し合うことの重要性や、解体補助制度の周知、公共施設や空き家を活用した住宅・移住促進など、多様な活用方法について意見が出されました。

仙北市のファンづくり・移住

「働く場所や産業を増やすことが移住促進につながる」「地方ならではの豊かな自然や低コストで挑戦できる環境を活かすべき」といった意見が出されました。また、廃校などの遊休施設を活用したスタートアップ拠点や交流施設を整備し、新たな産業や雇用を創出することで、定住促進につなげていくという提案もありました。



市の考え方

- ・デマンド交通は維持していきたい。
- ・路線バスは、運転手の確保や乗車人数の減少により、今後も減少が見込まれる。市単独での維持は難しく、地域の皆さまと共に交通を支えていきたい。



市の考え方

- ・今年度から解体補助の上限額を20万円から最大100万円にあげ、全体予算も3,000万円に拡充した(今年度の予算はほぼ上限に達しました)。
- ・多くは相続問題で手つかずの状態。商業建築の空き店舗も増えている。
- ・まずはご家族での話し合いが大事。
- ・現状把握を進め、移住希望者への情報提供に取り組む。

市の考え方

- ・稼ぐことは非常に重要。ただ、市が掲げる幸福度はイコール収入だけではなくさまざまな豊かさを享受できるこのまちの環境が幸福度につながっている。
- ・『仙北市で暮らす幸せ』、そして『仙北市でなければ』という企業と一緒に取り組んでいきたいと考えている。



問合せ/まちづくり課 ☎ 43-3315